

令和5年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」交付申請（実績報告）関係様式

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

市町名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年目標値	本年実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
湖南市	③学校と家庭の課題	家庭における学習習慣の定着	・R4年度全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問項目について、1日30分以上していると回答をした児童の割合は、小学校で1.8%、中学校で10.8%全国平均を下回っている。家庭学習の習慣化が図れていない実態は市内各校の学校評価からも見えてきており、学校・家庭の共有の課題となっている。	年間に「地域未来塾学習支援員」を中学校に100時間、「土曜日の教育支援活動コーディネーター」を小学校に70時間配置し、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携・協働により、ボランティアの確保に努め、放課後、土曜日等の学習・体験の実施時間を確保する。	学校以外で、放課後、土曜日等に学習や体験に取り組む児童生徒が増える。	学校の授業以外に普段30分以上勉強する児童・生徒の割合	小73.4 中75.7	%	小78 中80	小75.6 中66.6	2 ・小学校は本年度の目標値には達しなかったものの前年度を上回る数値を得ることができたが、中学校ではかなり目標値を下回った。 ・中学校では各教室に運営を任せているが「地域未来塾」の趣旨を市内全体で確認し、運営の状況を交流する必要がある。 ・指標の実績値は令和5年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査の結果であり、調査は令和5年4月に行われている。令和5年度一年間の成果がその数値に十分表れているとは言い難いので、改めて令和6年度4月調査の結果を踏まえて分析する。また、評価の時期を検討する。	https://www.city.shiga-konan.lg.jp/index.html

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」仮申請関係様式

都道府県名	25_滋賀県
市区町村名	252115_湖南市

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年目標値	本年実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
252115_湖南市	③学校と家庭の課題	家庭における学習習慣の定着	・R5年度全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問項目について、1日30分以上していると回答をした児童生徒の割合は小学校で75.6%、中学校で66.6%であり、これは小学校で8.4%、中学校で17.2%全国平均を下回っている。家庭学習の習慣化が図れていない実態は市内各校の学校評価からも見えてきており、学校・家庭の共有の課題となっている。	・コロナ禍をきっかけに各校で「家庭学習」の手引き等を作成し保護者への啓発を行ってきたが、十分に浸透していない。年間に「地域未来塾学習支援員」を中学校に100時間、「土曜日の教育支援活動コーディネーター」を小学校に70時間配置し、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携・協働により、ボランティアの確保に努め、放課後、土曜日等の学習・体験の実施時間を確保する。特に、課題意識を学校と家庭、地域でさらに共有していきたい。	・引き続き、年間に「地域未来塾学習支援員」を中学校に100時間、「土曜日の教育支援活動コーディネーター」を小学校に70時間配置。学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携・協働により、ボランティアの確保に努め、放課後、土曜日等の学習や体験に取り組む児童生徒が増える。	学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問項目で1日30分以上していると回答をした児童生徒の割合（R6年度全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査）	小75.6 中66.6	%	小80 中75			